

りべらしおん

研究所ニュース

No.56

「りべらしおん」は、フランス語で「解放」という意味です。

発行：社団法人 福岡県人権研究所 (4/1から「公益社団法人」に移行します)

〒812-0046 福岡市博多区吉塚本町13-50 福岡県吉塚合同庁舎内 TEL 092-645-0388 FAX 092-645-0387

Mail: info@f-jinken.com URL: http://www.f-jinken.com/



講演する阿南重幸さん



パネラーの長岡俊光さん(左) 加来康宣さん(右)



コーディネータの加藤陽一さん

(いずれも事務局撮影)

史実と授業・啓発の結合をめざして

二〇一三年二月九日(土)

北九州市 西日本総合展示場AIM(エイム)

教科書に部落問題が記述されるようになって四〇年が過ぎます。その間、教科書改訂のたびに、歴史研究の成果や部落問題に関する認識の深化を反映して、取り上げられる内容や記述の仕方が変化してきました。

部落問題に関する教科書記述はどのように変化してきたか、その背景や意味をどのように考えればいいのか、教育や啓発にあたって押さえておかななくてはならないことは何か等々について、教育・啓発の現場からの疑問も聞かれます。

(社)福岡県人権研究所は、前身である「福岡部落史研究会」の時代から、「史実と授業の結合をめざして」と題した研修会を開催し、多くの研究・実践を蓄積するとともに、その成果を全国に発信し高い評価を得てきました。本年度は、北九州市同和教育研究協議会、北九州人権フォーラム二一、福岡県高等学校人権・同和教育研究協議会北九州地区連絡会との共催、北九州市、北九州市教育委員会の後援をいただき、社会教育に携わる方々も交えて、名称を「史実と授業・啓発の結合をめざして」と変更して開催し、約八〇名が参加しました。

「史実と授業・啓発の結合をめざして」
新しい流れのなかでどう取り組むか

(社)福岡県人権研究所 啓発部会長
宮脇繁紀

基調講演は長崎人権研究所の阿南重幸さん。従来の講演形式ではなくテーマにもあるように、今回は「史実と授業」に、「啓発」との結合を加え、現場からの実践と講演に対する問題提起というシンポジウム形式を採用した。教育現場からは北九州市立中学校教諭の長岡俊光さん、啓発現場から築上町人権・「同和」教育研究会事務局長の加来康宣さん、コーディネーターは(社)福岡県人権研究所の加藤陽一理事が行った。



会場の様子 (事務局撮影)

教科書から土・農・工・商が消えた？

阿南さんは、「教科書から土・農・工・商が消えた？」と題して講演し、昨年のセンター試験の設問内容を紹介しながら、教科書に記述されるようになった歴史と内容の変遷を紹介。「土・農・工・商とは縦型の身分制度ではなく『四つの民』であったとするのが合理的であり、実際に江戸時代の被差別部落民は、土・農・工・商のすべての職業に携わっていた」と報告し、「分断支配説や政治起源説には無理があるのではないか」と疑問を投げかけた。

各教科書からも「(武士への)不満をそらす」

や、「分断支配」の記述がなくなっていた。今や「近世政治起源説」を明言する教科書の記述は見られなくなっている。二〇一二年版の教科書には、被差別民の記述に、「民衆のなかには、百姓・町人とは別に、えた・ひにんなどの身分とされた人々がいました。これらの人々は、幕府や藩の役人のもとで、犯罪者のとりしまりや処刑などの役目を担ったり、芸能に携わったり；社会や文化を支える役割を果たしていましたが、暮らした。

の上ではさまざまな差別を受けました」と記述されている。

被差別民と芸能、文化の担い手

室町時代には、銀閣寺をはじめとする優れた庭園、芸能、東山(京都)文化を生み出した河原者といわれる人々が登場する。これらの人々は、死牛馬の処理に携わったり死や出血に関係するものとして「ケガレる」として差別された。また、近代医学の基礎ともなった人体の解剖にも、死牛馬の解体処理に携わっていた人々の存在を抜きにできない。講演では、最近の教科書記述を丹念に紹介しながら、一八四二年の岡山藩内で起きた「渋染一揆」の捉え方、身分秩序の維持・固定化の意図等を紹介され史実の検証と現場での取り組みを提起された。

現場の課題と問題

講演を受けたシンポジウムで長岡さんは、「土・農・工・商・エタ・ヒニン説により学習してきたが、現場では、記述が変わってもそれが直ちに形になるわけではない。試行錯誤を繰り返しながら実践しているのが現実」と、加来さんは、一九七二年版教科書と各採択年度の記述の変遷を紹介しながら、「ケガレ観も理解できないことはないが、さらに遡ればどうしても天皇制の問題に到達せざるを得ないのでは」と提起された。

効果的な啓発、新たな部落史と啓発

今回の催しは、(啓発部会も参加して)初めて北九州市で開催したこと、史実と授業に加えて「啓発」との結合を課題にしたこと、さらに、「部落史」の見直しのなかで、教育、啓発はどうあるべきかを問題意識としたこと、さらに言うならば、昨年六月の当研究所総会後の記念講演での新たな視点で部落史を考える機会として上杉聡さんの講演会、八月には「部落史連続講座」の開催等、そうした流れのなかで開催されたことでもあり、意義深いものとなりました。

以下、参加者の主な感想を紹介します。

(講演の感想)

○二十数年前、六年生の社会科で身分制を教えた時、「さらに低い身分」という教科書どおりに教えた。被差別部落の解放子ども会に来ていた子が「さらに低い身分の子孫だ」というとイヤだった」と感想を書いたことを思い出した。差別を乗り越えてたくましく生きていく子どもをつくる第一歩はやはり正しい歴史認識、社会観ですね。

○歴史教科書の記載が変わったということは歴史の研究も深まり史実に基づくものになっているからでしょう。私も歴史の授業で土農工商えた非人を三角形の図で教えていました。史実に基づいた歴史教育を行わなければと感

じました。そういう意味では、歴史書を読んだりして正しい知識を身につけねばと思いません。

○教科書の記述について、以前とは大きく変わったとは知っていたが、今日、その点を明らかにしていただいたと思う。まだまだ勉強不足で、知らなければならぬことはたくさんあると思った。本当に勉強になった。

○学校の分掌では人権担当ですが、教科は社会科ではないので教科書をじっくり見ることではなく、興味深く話を聞くことができました。社会科の教師がたくさん参加すればいいのじゃないかと思いました。(ほとんどの学校では社会の先生が来られていたかもしれませんが)今回の研修で、私は昔に習った知識のままなんだなあ、ということが分かりました。どの分野でもそうですが、日々勉強していくことが大切だと思いました。

○身分制度に関しては、自分の勉強不足の為、いわゆるピラミッド型を思い浮かべました。そうではないことを知り、本当に驚いてしまいました。「作られたイメージ」という言葉がとても印象に残っています。作られたイメージによって差別がばらまかれ、差別が続いているということになるのでしょうか？このところがよくわかりません。正しい歴史認識

が差別をなくしていく原動力になると思いますが、「何が正しいのか」、これがいちばん難しいのだと思います。また、異質なものを排除する心理、未知なるものに対する不安、これらを克服することも大切なかもしれないと思います。

(シンポジウムの感想)

○差別される理由を教えるかのような教育や啓発にとどまるのでは、差別を温存、助長してしまうのではないかと、私たちの身近な問題として、自分に関わる問題として感じ、考え、行動できるような教育・啓発でありたいと三人の話を聞きながらずっと考えておりました。三人の話を私たちはどのようにかみ砕いて教育や啓発に生かしていくか、大変難しいテーマです。阿南先生のまとめはとても納得しました。

○パネリストと講師、コーディネーターの皆さんそれぞれの考え方が大変おもしろく、勉強になりワクワクしました。しかし、今日の講演もパネルディスカッションも課題が次から次へと出てきました。そういう意味でもとても前向きにさせてもらいました。



「人権文化をつくる北九州市民のつどい二〇一三」
「第一七二回定例研究会」
「第二回人権啓発担当者のつどい（啓発部会）」
主催：北九州人権フォーラム二一
(社)福岡県人権研究所
人権の根っこを見据えて
「無関心とアレルギーを克服するために」
講師：稲積謙次郎さん

官民の協働を確かなものに

そして人権文化の創造へ

二月十五日（金）「人権文化をつくる北九州市民のつどい二〇一三」、(社)福岡県人権研究所としては「第一七二回定例研究会&第二回人権啓発担当者のつどい」が北九州市の富士見ホールで開催されました。

寒々とした夕暮れ時、平日の午後六時半からという時間設定で、かなり広い会場でしたが企業や教育現場、行政現場や運動団体等から約一六〇名と多くの参加者があり、真剣な学びの雰囲気がありました。

共催した「北九州人権フォーラム二一」の二〇年あまりの取り組みの蓄積・力量を改めて垣間見た思いでした。

演題は「人権の根っこを見据えて」無関心とアレルギーを克服するために、講師は、北九州人権施策審議会会長の稲積謙次郎さん。講演で稲積さんは、「人権問題に対する無関

心とアレルギー現象が広がっている。なぜ起きるのか。人権を自分のこととして捉えるためには、様々な人権問題の根底に横たわる共通の構造と課題に視点を置いた新たな切り口からの人権教育・啓発の再構築が求められている。最近では、薄っぺらな人権抽象論、一般論にすり変わっている傾向も見られる。そうならないよう、人権の根っこを見据えた統合的な教育・啓発の創意工夫が必要である」と指摘。特に問題とされる傾向として、特徴的な差別事件を例に、弱者が、より弱者を差別する二重構造の問題、いじめの構造にも共通している傍観者の態度、総論賛成、各論反対とも言える建前と本音との乖離、「作られた異質性」による差別、風評を生み出す、ふわ



講師の稲積謙次郎さん（事務局撮影）

ついた世情についての危険性も指摘されました。また、教育・啓発に当たって踏まえるべき共通の理念・観点として、人間の尊厳、いじめや加害者に共通する低い自尊心、いのちの軽視、触れ合う機会、出会いの場の減少、(情報化、国際化、少子高齢化等複雑多様化する)今日の差別を複眼的な視点で捉える必要性、グローバル化するなかで国際的な視点の必要性、コミュニケーション能力を身に着ける必要性等に触れられました。

改めて「人権とはなにか、その根底に共通する普遍的なものをキチンと把握することの必要性」を痛感した次第です。

会場からも、「理論や知識を実行に移すための行動力の源になるのはなにか?」、「児童館に勤めているが地域の親との関係に難しいところがある」など、現場での課題について発言がありました。

幅広く連携の輪を

啓発部会として 北九州における、「史実と授業・啓発の統合をめざして」(シンポジウム)及び「人権文化をつくる北九州市民のつどい二〇一三」に参加させていただいての実感です。

「人権フォーラム二一・人権の約束」が掲げる「人間の尊敬、差別問題の解決をめざす「人権のまちづくり」を「官民協働の精神で推進する」活動の歴史、地域の層の厚さ、京

築を含め、部落解放、人権運動の歴史の厚さに触れさせていただきました。

福岡県人権研究所啓発部会としても、今後北九州、京築にもウイングを広げながら、地域や企業、行政、教育関係者、運動団体の皆さんと協働し、人権啓発の推進をめざしていきたいものです。関係者、団体の皆様、ありがとうございました。

(啓発部会長 宮脇繁紀)

外国人部会の活動について

「プランテーション(農園)の女性たち」

松本京子さんの報告

二月十七日(日)、(社)福岡県人権研究所で行った外国人部会では、「プランテーションの女性たち」と題して、会員の松本京子さんから報告をしていただきました。「イギリスの支配とプランテーション、コーヒーから紅茶へ、紅茶農園で働く女性達と最近の動向」に関する内容でした。人口の七四%を占める仏教徒のシンハラ人と一八%を占めるヒンズー教徒のタミール人との軋轢がある中、「国籍法」により現在でもインドタミール人には国籍が付与されていない現実。宗教、カースト制度、民族、ジェンダーなど様々な要因を伴う重層的な差別、格差についての報告は、スリラン



紅茶農園の女性達と松本京子さん(中央)
(写真は松本さん提供)

カの現状を知る貴重な機会となり意義深いものでした。

報告書作成にむけて

報告の後、次年度の部会の計画について話し合いを持ちました。二〇〇九年に『リベラシオン』に「外国人研修・技能実習制度に関する中間報告」を部会員で執筆しました。その後二〇〇九年に入国管理法が改正されたのを受け、次年度の外国人部会では、技能実習生の現状や課題についての調査・研究活動を中心的に行い、年度内の最終報告書完成をめざします。

その手始めに、六月八日(土)は、中島真一郎さんによる「外国人実習生」についての

報告会を開催します。その後、報告書作成のための定例会を数回、福岡市と北九州市で行い、完成をめざします。

その間、林内隆二さんによる「高校における外国籍生徒のアイデンティティについて(仮題)」の報告会を開催予定です。これらの両報告を参照しながら、日本社会においていかなる多文化社会のあり方をめざしたらいいのかを探っていきたくと考えています。会員の皆様の力なくしては完成できませんので、ご協力の程よろしくお願い致します。

人権の保障される社会をめざして

経済停滞を伴う最近の日本の保守化傾向をみるにつけ、人権の保障の難しさを感じないではいられません。いじめによる自殺、契約社員の解雇、失業など、最低限の人権さえ確保できない様々な課題が山積しています。そればかりか、憲法二一条の「集会・結社・表現の自由、通信の秘密」さえ改正されようとしています。このような時こそ人権の保障される日本社会をめざして、一人ひとりができることから始めるしかありません。声を上げ続けることを諦めないで、それぞれの個性や人格が最低限尊重される社会を次世代に残すことが我々の責任だと痛切に感じています。生きていくのが楽しいと思える社会作りをめざしましょう。

(外国人部会長 山田澄子)

服部英雄九州大学教授主催「被差別民衆史・研究方法論」奈良研究集会 (フィールドワーク) 奈良町の歴史と文化 —南域を中心に—

二月十七日(日)に行われた、「奈良町の歴史と文化—南域を中心に—」と題した奈良市内におけるフィールドワークの概要を紹介いたします。

①日本聖公会奈良基督教会

明治二〇(一八八七)年に米穀聖公会が開いた教会。信徒たちによって作られた奈良英和学校では、被差別部落出身で、後に京都帝国大学社会学講座で最初の教授となった米田庄太郎や、大和同志会会長の松井庄五郎らが学んだ。

②元林院町

江戸時代は絵師が多く住み、今も町の北部にかかる橋は絵屋橋と名付けられている。明治初期〜二〇年代までは遊郭が置かれ、後に芸妓置屋や料亭などが並び立つ花街となった。

③鎮宅靈符神社

陰陽町居住の陰陽師が信仰していた鎮宅靈符神を祀っていた。貞享四(一六八七)年の地誌『奈良曝』によると、奈良町には三一名の陰陽師がいたとされ、その居住地として陰陽町・奥芝辻町などがあげられている。奈良

町の陰陽師は奈良暦の製造にも関わっており、中世の声聞師との関連が考えられる。

④十念寺

南風呂町にある浄土宗の寺院。「非人」救済に尽した忍性が開いたとの伝承がある。十念寺の前身の浄土寺には、銭湯が設けられており、一五世紀の終り頃、声聞師の入浴を拒絶した史実が残っている。

⑤靈巖院

一二世紀末に中国から渡来した伊行末という石工の流れを汲んだ「伊派石工」たちが、大和や南山城を中心に優れた作品を残した。靈巖院境内の阿弥陀三尊石仏もこの流れを汲んだものと思われる。同境内には、奈良の史料や伝承の収集に努めた村井古道の墓もある。著書『奈良坊目拙解』には被差別民衆に関する記述も多い。

⑥漢国神社

境内の源九郎稻荷社は、隣接する念仏寺にあったものを大正一五年に移した。施主として、大和同志会創立者の松井庄五郎とともに、京都の有力な皮革商、山岡末吉の名も刻まれている。

⑦西方寺

西山浄土宗。墓地には、遺骸の火葬・埋葬にあたる三昧聖が住んでいた。大和同志会の松井庄五郎の墓がある。

⑧西之坂町

近世は太鼓の生産がさかんだった。「松井庄

訃報

(社)福岡県人権研究所顧問の羽音豊氏にありましては、二月二十四日(日)、午前九時五七分、心不全のため、田川市内の病院で逝去されました。享年八十七でした。衷心よりお悔やみ申し上げますとともに、会員の皆様にお知らせいたします。

なお、ご本人の遺言は、「香典、花輪等一切お断りする」「皆様には心より感謝する」「家族葬で行って、皆様多忙だから知らせないでほしい」とのことです。研究所としては弔電を送りましたが、現時点ではご遺志を尊重し静観しています。

(社)福岡県人権研究所理事長 森山沾一

新刊書の紹介

ブックレット 菜の花⑩ 二〇一三年四月

人権とは何か —増補・改訂版—

横田耕一

頒価 一〇〇〇円+税(会員は二割引)

二〇〇六年刊行以来、人権に関わる人たちのわかりやすい手引き書として多くの人に読まれている『人権とは何か』(横田耕一著・九州大学名誉教授)が、バージョンアップして刊行されました。最新の人権状況から資料ま

で、全て書き下ろしで内容も大幅改訂されたお薦めの書です。



ブックレット 菜の花⑩ 二〇一三年二月

部落解放史の最前線

—啓発・教育の現場と研究をつなぐ—

服部英雄 寺木伸明
布引敏雄 石瀧豊美

頒価 一〇〇〇円+税(会員は二割引)

本書では、昨年当研究所主催で開催した部落史連続講座に基づき、中世、近世、幕末期における被差別民の多様な生活・暮らしに焦点を当て、初心者にも分かりやすく部落解放史を解説しています。また、部落史連続講座の参加者アンケートより、部落史・部落問題に関する市民の素朴な疑問にお答えするQ&



松井庄五郎翁頌徳碑 (著者撮影)

五郎翁頌徳碑」がある。明光寺は浄土真宗西本願寺の直末。松井庄五郎らが結成した「大和同志会」の設立総会もここで行われた。

……

奈良町フィールドワークの途中、あちらこちらの民家の玄関先に「柀鯛」を発見。節分の魔除けとして奈良市内ではよく見られる風習だという(柀のとげで鬼の目を刺す、鯛のにおいで鬼を追払う)。福岡出身の私には珍しい光景であった。

(事務局 田中美帆)



「柀鯛」焼いた鯛の頭と柀の枝 (著者撮影)

Aも掲載しています。

なお、本書編集中の昨年秋に、執筆者の一人である服部英雄氏が、『河原ノ者・非人・秀吉』(山川出版)で毎日出版文化賞を、石瀧豊美氏(当研究所理事)が、福岡市文化賞を受賞しました。是非ご一読下さい。



(お求めは研究所まで)

お知らせ

〇二〇一三年度研究プロジェクト募集

二〇一三年度の研究プロジェクトを募集しています。申請される方(グループ)は「研究プロジェクト申請書」「研究計画書」(様式は任意)を事務局まで提出してください。

▽応募期限 四月十九日(金)

(応募用紙は研究所HPからもダウンロードできます)

○「リベラシオン執筆者・読者の交流会」

リベラシオン(一四三〜一四九号)の執筆者と読者の交流会を行いますので、ふるってご参加下さい。

▽日時 四月七日(日)午後三時〜五時

▽会場 福岡市人権啓発センター(ココロンセンター)

地下鉄「中洲川端」駅、博多リブレインオフィス10階

○二〇一三年度通常総会・記念講演会

「公益社団法人」移行記念祝賀会(仮称)

▽日時 二〇一三年五月一九日(日)

▽会場 ホテルレガロ福岡(博多区千代一〜二〇一三)

地下鉄「千代県庁口」四番出口徒歩三分

▽内容 通常総会と記念講演会 午後一時〜(予定)

「公益社団法人」移行記念祝賀会(講演会終了後)

※詳細は次号のニュースでお知らせします。

[研究所のアドレスが変更されます]

4月1日付けの「公益社団法人」移行にともない、これまでの研究所代表のメールとHPのアドレスが変更になります。現在の

fukuokajinkenken@happy.odn.ne.jp

は3月末で廃止となりますので、ご注意ください。



○新メールアドレス

info@f-jinken.com

○新HPのURL

http://www.f-jinken.com/

どうぞ宜しくお願いいたします。

研/究/所/日/誌/か/ら (2013. 01. 20~03. 11)

- 01/21(月) 事務局会
- 01/22(火) 第8回歴史学習プロジェクト
- 01/24(木) 全九州水平社創立90周年記念誌編集委員会
- 02/04(月) 事務局会
- 02/05(火) 編集委員会
- 02/08(金) ブックレット菜の花17『部落解放史の最前線』発行
- 02/09(土) 「史実と授業・啓発の結合をめざして」(北九州市 AIM) 第7回啓発部会
- 02/11(祝) 九州部落解放史研究集会打合せ(熊本)
- 02/14(木) 事務局会
- 02/15(金) 第172回定例研究会/第2回「人権啓発担当者のつどい」(啓発部会)(北九州市)
- 02/17(日) 第2回外国人部会
- 02/21(木) 事務局会
- 02/23(土) 福岡県人権・同和教育実践交流会(登壇;事務長)
- 02/24(日) 全九州水平社創立90周年記念誌編集委員会
- 02/24(日) 第6回執行理事会
- 02/26(火) 第9回歴史学習プロジェクト
- 03/02(土) 第21回理事会(クローバープラザ)
- 03/04(月) 事務局会
- 03/07(木) 人権資料・展示全国ネットワーク福岡地区会議
- 03/09(土) 全九州水平社創立90周年記念誌編集委員会
- 03/09(土) 第6回部落史研究部会
- 03/11(月) 事務局会

(※住民意識調査等の受託事業、公益社団法人申請に関する調整・事務、研究・研修や教育・啓発に関する相談等の業務については省略しています。)